

リンドウ早生系品種「極々早生1」の育成

葛巻美知子・児玉勝雄

(岩手県農業研究センター)

Breeding of Gentiana new Cultivar "GOKUGOKUWASE 1"

Michiko KUZUMAKI and Katsuo KODAMA

(Iwate Agricultural Research Center)

1 はじめに

岩手県でこれまで育成されたリンドウの切花品種は7月下旬咲きから11月上旬咲きまで9品種あり、リンドウ生産は出荷本数、出荷金額ともに日本一となっている。7月上、中旬出荷は促成栽培、半促成栽培で可能であるが、施設導入や連作障害等の問題があり、普及が進んでいない。また、露地の7月出荷は価格の安い下旬に集中しているのが現状であり、露地栽培で7月中旬の東京新盆に対応可能な品種開発が強く望まれていた。

そこで、現有の極早生品種「マシリィ」より早い7月上中旬開花を目標とした品種開発を行った結果、有望系統が得られたので報告する。

2 育成経過

平成9年に長野系エゾリンドウから系統選抜により開花期が早い集団を育成し、母系とした。

平成11年にその母系に福島系、栃木系等の開花期の早い系統と組み合わせ交配を行った。これらの中から開花期の早い5系統を選抜し、平成13年から16年にかけて特性検定を実施した。

特に開花特性を重点に検定したところ、開花期の点からは「極々早生1~3」が有望と考えられた(表1)。また、花色、草姿等の形質についても評価を行い(表2)、最終的に長野系エゾリンドウ選抜系統を母系としたものに、福島系エゾリンドウ選抜系統を父系として交配したF1品種である「極々早生1」が有望であることを確認した。

3 特性の概要

既存品種で最も開花が早い「マシリィ」を対照品種として評価を行った。当初有望と考えられた5系統の主な特性は以下のとおりである(表2)。

(1) 平成11年交配「極々早生系統」の特性概要

ア 極々早生1

- ・開花期は「マシリィ」より5~9日程度早い。
- ・草丈は低めであるが、花段数は4~5段である。
- ・茎の強度は中程度である。

イ 極々早生2

- ・開花期は「マシリィ」より10日程度早い。
- ・草丈は大きく、花段数は5~6段と多い。
- ・茎の強度は中程度で、葉はやや大きい。

ウ 極々早生3

- ・開花期は「マシリィ」より5~9日程度早い。
- ・草丈は低めで、茎の強度は弱い。
- ・花段数は4段で、頂花の咲きは遅い。

エ 極々早生4

- ・開花期は「マシリィ」と同程度~1週間早い。
- ・草丈はやや大きめであるが、茎の強度は弱い。
- ・花段数は4~5段で、頂花の咲きは遅い。

オ 極々早生5

- ・開花期は「マシリィ」と同程度~1週間早い。
- ・草丈はやや大きめで、茎の強度は中程度である。
- ・花段数は5~6段と多いが花の斑点が多く、頂花の咲きは遅い。

(2) 「極々早生1」の特性

形質等の特性も含めて総合的に判断し、「極々早生1」を有望系統として選定した。特性は以下のとおりである(表3)。

開花期：育成地(北上市)では7月3~4半旬、「マシリィ」より5~9日早い。

花：花色は「マシリィ」と同色、花の大きさは同等である。下段から開花するが、頂花は咲きやすい。

花段数：4~5段、「マシリィ」よりやや多い。

草丈：95~100cm、「マシリィ」よりやや高い。

茎：茎径は「マシリィ」と同等であるが、曲がりの発生は少なく、茎立数は「マシリィ」より多い。

葉：「マシリィ」よりやや大きい。

4 最後 に

品種育成に関してはできる限り早く普及するために現地実証試験を平行して行っているが、現地の評価も高い。

「極々早生1」が育成されたことにより、7月下旬に集中していた出荷が分散され、7月上中旬の出荷量が増加するとともに、その他の早生系3品種を地域に

あわせて組み合わせることにより、新旧盆需要期に安定した出荷が可能となる。

現在保有している有望な母系等の選抜、交配組み合わせ等により、さらに開花の早い品種の育成は可能と考えられるので、今後も極々早生系統の育成を継続する予定である。

なお、「極々早生1」は、平成17年7月に品種登録申請を行っており、17年度から生産者に種苗を供給している。

表1 極々早生各系統の年次別開花期

系統	年次 (年)	株 齡	開花期 (月/日)
極々早生1	14年	3	7/14
	15年	4	7/19
	16年	3	7/14
極々早生2	14年	3	7/12
	15年	4	7/15
極々早生3	14年	3	7/14
	15年	4	7/19
極々早生4	14年	3	7/16
	15年	4	7/25
極々早生5	14年	3	7/15
	15年	4	7/25
マシリィ	14年	3	7/23
	15年	4	7/24
	16年	3	7/22

1) 全茎数の50%が頂花まで開花した時期

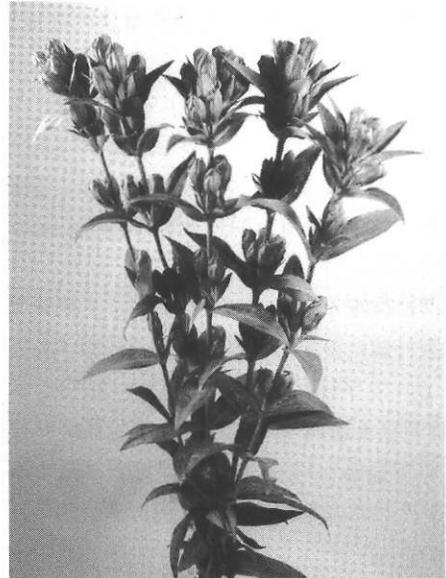


写真1 「極々早生1」

表2 極々早生系統の特性 (平成15年)

系統名	花色 ^{※1}	花段数	花の 斑点	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)	茎の 強度	節間長 (cm)	側枝の 発生	葉の大きさ	
									葉 長	葉 幅
極々早生1	青紫	4~5	無	100	4.4	中	6.7	無	中	中
極々早生2	青紫	5~6	少~中	120~125	4.2	中	7.5~8.0	無	中~長	中
極々早生3	青紫	4	無	100	3.5	弱	6.5	無	中~短	中
極々早生4	青紫	4~5	無	110~120	4.1	弱	5.5	無	中	中~広
極々早生5	青紫	5~6	中~多	115	4.1	中	7.0	無	中~短	中

※1 花色は日本園芸植物標準式表にて判定。コード番号: 8009

表3 「極々早生1」の品種特性 (平成16年)

品 種	開花期 (月・旬)	花色	花段数 (段)	草丈 (cm)	節数 (節)	茎立数 (本)	茎径 (mm)	葉の大きさ(cm)		花冠の大きさ(cm)		花冠の斑点程度	
								葉長	葉幅	長さ	直径	内部	外部
極々早生1	7・3	青紫	4.6	96.4	20.3	11.2	4.3	1.1	3.0	4.7	1.4	無	少~中
マシリィ	7・5	青紫	4.0	92.0	22.1	5.2	4.2	8.4	2.5	5.2	1.3	少	少